

HY-Tec Net通信

第 7 号

【2002年 1月】

発行者

本荘由利テクノネットワーク

企業間・産学連携による新技術・新事業の創出

CONTENTS

メッセージ

あいさつ 再生を目指して
活動経過の報告

◆代表 久津輪 社
◆幹事長 須藤 一知

連載

モンゴルの産業発展のきざし
経営・技術戦略と地域産業の活性化(1)

◆一橋大学大学院商学研究科 関 満博
◆ビジネスデザイン研究所代表 高橋 哲生

「学」会員PR

◆秋田県立大学システム科学技術学部経営システム工学科 製品技術管理学講座 助教授 菊地 英治
A ターン秋田美人との楽しい産学連携
◆秋田県立大学システム科学技術学部機械知能システム学科 熱工学講座 助教授 日向野 三雄

「企業」会員PR

●株式会社工業所・T S I (株)
●株式会社工業所

産学共同研究センター紹介

産学共同研究センター紹介
行事情報・編集後記



HY-Tec Net 代表
株式会社新電元 顧問
久津輪 社

あいさつ 再生を目指して

HY-Tec Net 代表
株式会社新電元 顧問 久津輪 社

遅くなりましたが改めて 明けましておめでとうございます。

ここ数年、その年がどん底で次の年はよくなるとの期待をするものの意に反して悪化はとどまるどころを知らないで来た。日本の経済状況は小手先の対策でなんとかなるものではなく、根元的な対策（構造改革もこの中に入る）をとらねばならない状況にある。今まで個々の企業は大変な努力を払ってきたのに政治が無策だったため国際経済での地位の後退、国内経済の停滞、今日の危機的状況を引き起こした。

政府には今までの過ちを取り戻すような強力なリーダーシップを発揮して国内外の経済活動を再生させる改革に全力を上げてもらいたい。反面これを余り期待せず並行して県や市町及び産学の指導者は地域が独自に食っていく道を探し出さねばならない。

経済界にとって次に柱となる産業は何か、各業界にとっては市場がいかに変化するか、企業にとっては次にどんな新製品、どんなサービスが主力となるか模索しているが未だ見出せていない。経済が大きな曲り角にある証拠とも言える。

従来はじっと我慢すれば何とかかなると思ってやってきたが、それでは何もよくなるということが明白になった。現に大手電機会社が軒並人員の大幅削減を打ち出し、業容の再構築を進めている。

地方ではもともとの産業が衰退し誘致企業頼みが多くなっているがそれではいけない。誘致企業なしで食っていける戦略を立てなければ今回のようなことが繰り返し起きる。

本荘由利では主として農業でも食える戦略を立て実行すべきであり誘致企業による雇用などの拡大は余録程度とみるのが望ましい（もっともTDKはこの地域のもともとの産業であるが）。

ややいい古された感があるが次の二点が特に地方経済としても推進力となると思う。

1. 生活環境をよくすること

大きく言えば環境保護（CO₂抑制、省エネルギー、省資源、廃棄物減、リユースなど）、住環境改善（都市農村整備、公園、文化設備、スポーツ施設など）、福祉関連、安全の確保（食品、災害ほか）などまで幅広く含み、人が生きるために真に必要なソフト及びハードの整備。従来の大型の国土開発計画とは異なる。

2. 個人を豊かにすること

一人一人が教養を高め、職業人として多方面の能力を開発し、趣味を幅広くし、深めること、他に健康の維持向上なども含まれる。

従来の一つの仕事一辺倒ではなく生涯学び、多方面の仕事をこなし、人生を楽しむことに惜しげもなくお金を使うと推しはかれる。

要するにこれからは一人一人が自由時間を有効活用して、より人間らしく生きることには価値を見出すことになる。そのための総合的な施策に力点がかけられると信ずる。

我々はいろいろな機会を利用してこの様なことも討論して将来の方向を考え出したいと思う。

本荘由利テクノネットワークは今迄以上に会員の皆様に有益な情報を提供し討論する場をもっと増やしたいと考えている。そして現状の打破に少しでも役立ちたいと思う。



HY-Tec Net 幹事長
（株）秋田新電元
開発部部长 須藤 一知

活動経過の報告

HY-Tec Net 幹事長

（株）秋田新電元開発部部长 須藤 一知

新年明けましておめでとうございます。早いもので当会が発足し15ヶ月が経過しました。発足準備の段階では稀にみる好況期で各企業は活況を呈した時期でありました。その後一転してITバブルの崩壊、EMS企業における過剰発注、過剰在庫の問題、賃金が7千円から15千円という中国企業の躍進、次世代携帯の市場投入遅れと、理由をつければ幾らでも出てくる今の状況、まさに天と地のごとくの15ヶ月でした。地元各企業でも構造改革が断行され当会からの個人会員様の脱会が始めております。寂しさと共に現実の厳しさを改めて認識させられております。

こういった環境の中12月18日当会と東北経済産業局との懇談会を開催しました。

「目的」新事業創出の大きな策として産学官連携があり、本荘由利地域は県立大学の開学により産学官連携の土壌が整備されている。こういった土壌が整備された組織に東北経済産業局の施策内容を説明する、また、連携組織の活動状況を知りたい。こういった目的で会が開催された。



「参加状況」東北経済産業局総務企画部より山内課長、泉課長補佐、阿部係長。同じく産業部より森谷課長補佐、嵐田課長補佐、以上5名の参加。当会からは会員企業数社、秋田県立大学、（財）あきた産業振興機構、本荘由利産学共同研究センター、（財）本荘由利産業科学技術振興財団、以上20名の参加。



「内容」東北経済産業局からは下記の通り、当会からはこの一年の活動状況を説明し終了しております。

①平成13年度補正予算に関わる提案公募型技術開発事業（委託費・補助金）の公募

- ・即効型地域新生コンソーシアム研究開発事業
- ・即効型中小企業地域新生コンソーシアム研究開発事業
- ・即効型地域新規産業創造技術開発費補助事業
- ・地域創造技術研究開発費補助事業

②中小企業対策関係13年度補正予算について

シリーズ 顧問トピックス



HY-Tec Net 顧問
一橋大学大学院商学研究科
教授 関 満博

モンゴルの産業発展のきざし - 大草原、遊牧民の国現在 -

HY-Tec Net 顧問

一橋大学大学院商学研究科教授 関 満博

この9月、半月ほどモンゴルの産業・企業調査に出掛けた。モンゴルと言えば「大草原」「遊牧民」が代名詞のようだが、その産業の実態はどうか?首都ウランバートルを中心にロシア国境に近いダルフアン、エルデネットという都市を約千キロ、四輪駆動車で駆け回り、40社ほどの現場で調査を重ねた。

都市集中、輸入品への依存

全国民240万人の約3分の1居住するウランバートルは、旧ソ連が骨格を形成したヨーロッパ風の町並みであり、そこに、近年人口が集中している。7～8階建ての住宅団地の庭先にもゲル（中国語のパオ）が建設され、郊外にもゲルや簡易な木造住宅が密集していた。1930年頃は全人口の82%が遊牧民であったが、現在では逆に遊牧民は81%になっている。

市郊外の工業団地に立地する工場は、主食のパン、食肉、乳製品工場に加え、カシミヤ、絨毯、木工家具、セメント等にすぎず、その他の消費材は徹底的に輸入品に頼っているように見えた。ロシア、東欧製品が多く、中国、韓国製も目立った。自動車は70%がロシア製、タクシーは韓国の現代製が大半であり、四輪駆動車は日本製が中心であった。

私立大学の最生

90年代初めに社会主義から転換をなし遂げ、一気に市場経済化、国有企業の民営化を推進。計画制時代にロシアなどに留学していた人々が、その転換期をうまく乗り切り、金鉱山、カシミヤ、電力関係、木材関係、中古車販売等で財を成していた。

他方、金融はほとんど機能不全であり、貸出金利は年30%、長期貸付は1年程度、さらに、運転資金不足が多く小さな商売に従事している人々を苦しめていた。だが、ひとびとは表情は明るく、ウランバートルだけで私立大学が200校も設立されているなど、教育への関心は際立って高い。私立大学を訪問すると、4階建ての古びたビルの各階がそれぞれひとつの大学であった。会計、法律、外国語などの単科大学であり、学生数も1学年50人程度と寺子屋の趣であった。私塾が乱立していた明治中頃の東京神田周辺の事情を彷彿させた。こうした所から、事態は動いて行くのであろう。

中小企業の登場

最終日、地元製品の展示会に赴くと、カシミヤ、皮革製品、乳製品に混じって、新建材、教材、印刷等の展示があった。事情を聞くと、いずれも新規創業したばかりの従業員10人程度の中小企業であった。連れていってもらった工場は、住宅団地の半地下にあり、かつては倉庫などになっていたものが細かく仕切られ、それぞれが小さな加工の仕事をしていった。

大草原と遊牧民イメージにとらわれ、また、民営化された限られた大型工場しか見えなかったモンゴルにも確実に新たなうねりが起こり始めていた。体制転換から10年、10軒しかなかったレストランが400軒にもなったことが象徴するように、古びたビルの大学、住宅団地の地下工場から事態は大きく動き始めていたのであった。



HY-Tec Net 顧問
ビジネスデザイン研究所
代表 高橋 哲生

経営・技術戦略と地域産業の活性化（１）

- 危機意識を企業革新のバネに -

HY-Tec Net 顧問

ビジネスデザイン研究所 代表 高橋 哲生

明けましておめでとうございます。合わせてHY-Tec Net 通信発刊1周年お祝い申し上げます。

昨年は世界の激動の中で、日本経済の停滞、この本荘・由利地区にあつてはTDKを中心とした不況風の吹き荒れる1年でしたが、今年は昨年秋スタートした本荘

由利産学共同研究センターをキーステーションに、産学官の連携による地域の活性化に期待もてる年であることを念願しております。

私は昨年、このHY-Tec Net 通信に「情報のコンテンツと活用」をテーマとし、4回にわたり「情報のもつ意味と付加価値」、「イノベーションの創出」、「多次元情報の創出と活用」、「産業と情報の空洞化」について国内外の実例を交えてお話ししましたが、結論的には、経営の意思決定には社内、地域を離れて外部から自社を見極める視点の必要性、実感としての積極的な市場情報の入手、即ち「知行合一」の精神でした。今年は「経営・技術戦略と地域産業の活性化」を取り上げ、私の地域活動に対する考え方と具体例をご紹介します。

昨年、歴史的に戦争の絶えなかった欧州13カ国による、単一通貨市場経済圏の準備完了、アメリカ同時多発テロによる国民の強力な団結心などでは、危機意識をバネにしたパワーを見せ付けられ、外圧や危機感に敏感な日本のお家芸が奪われ、また日本特有の「和の精神」もどこへやらの昨今でありました。私ごとですが、昨年12月東京から日帰りで中国返還後、初めて香港へ行き、香港TDKの社長の案内で、珠江地区の産業経済の発展振りを目の当りにし、特に深圳と香港の産業や生活居住が一体となった、ハイテク産業構造変革の「パワー」と「スピード」には学ぶべきものがありました。

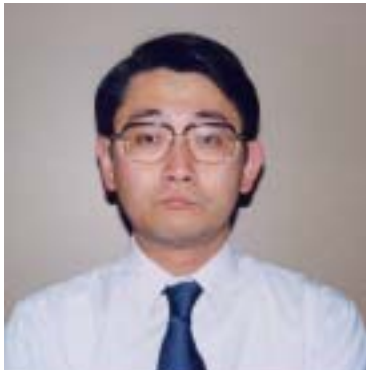
今年の日本経済は再起元年、産業は再生元年と言われており、いづれにしても後がない事への思いと思いますが、日本にも世界が目にする先端研究の生命科学、材料科学、工学、化学分野で明日の産業発展のベースになる芽が沢山あることは心強い限りです。特にバイオ・ナノテクノロジー的発想は今後の企業進化に不可欠な考え方と思えます。従って、各界・各層とのつながりや産学官連携は宝くじ論ではありませんが、行動を共にした人のみに与えられる恩恵だと思えます。そこで私は企業の皆様に、新事業化又は経営革新を目的に、「1社1テーマ」を選定し、これを産学官連携、またはコンソーシアム方式によって育て上げることを提案いたします。

地域社会の活性化の為に、全員参加運動による競争の原理の活用が必要で、今年私はこの仕事に積極的に取り組みたいと思っております。ものまね上手な日本を意識して、かつて米国のカーター・レーガン政権が1970年頃まで続いたポスト・パテント時代から、プロ・パテント時代へ政策転換したとも言われている今日、最近日本にも特許や企業秘密など知的財産権を保護するための総合戦略化の動きが出てきております。研究開発促進と産業の国際競争力復活や産業の空洞化に結びつけ、国豊が海外に遂げる布石だと言われております。

例えば、足元の本県にも秋大、県大、経法大、美短大を軸とする頭脳集団があり、これらの活用によって技術・ブランドなどの知的財産を蓄積し、中国など台頭する地域を生産拠点として活用する戦略が可能で、このような国際競争力をつける施策なしに、地域の発展はないと考えます。そのためにも他流試合の出来る核人材を「1社1テーマ」によって育てようではありませんか。幸いにして県大では、今年から社会人も入学可能な大学院が開設されます。企業にとってこの大学院は、シーズ・ニーズの融合された理想的な制度だと思えます。PRも兼ねて私の考えを述べさせていただきました。

終わりに失われた10年とよく言われますが、失うものがなくなった今日、各社・各自の得意技（コア・コンピタンス）を再発見し、自社や自己実現に向けて躍進する2002年でありたいと願っております。

私からのPRメッセージ!



秋田県立大学システム科学技術学部
経営システム工学科
助教授 菊地 英治

秋田県立大学システム科学技術学部
経営システム工学科製品技術管理学講座

助教授 菊地 英治

本学の開学と共に着任して、早くも三回目の冬(熱燗の季節)を迎えました。本荘由利地区はお酒も肴もおいしいところなので生来の酒好き(でも弱いのですが)の私は、ついつい仕事を忘れて酒に考えが向いてしまいます。本学着任前はつくばにあった旧工業技術院の資源環境技術総合研究所と言うところに六年間おり、それ以前は三年ほど民間企業にいました。従って、産・官・学と渡り歩いて来たこととなります。大学・大学院では工学部の化学系学科、いわゆる応用化学の講座に所属し、光電気化学・半導体電気化学を中心として、金属や半導体の薄膜合成や合成した薄膜電極の光電極特性、光触媒反応などについて勉強してきました。光電気化学とは電解液中の電極に光を照射して電極の挙動や表面での反応を調べたり利用したりする分野、また半導体電気化学とは半導体を電極として用いる電気化学の分野です。ともに今流行の酸化チタン光触媒の基礎となる分野です。卒業後もこれらの技術に関係した分野の研究・開発に携わってきました。また、学生時代には火薬学についての科目も履修し甲種火薬類製造保安責任者資格を取得した他、実験系排水処理技術に付いても勉強してきました。

現在は、有害元素の鉱工業排水中からの分離・回収技術への光電気化学、半導体電気化学の応用について、主に研究しています。具体的には排水中のセレンやテルルなどの元素の安定な酸素酸イオン(中心元素の周りを酸素イオンが囲んだ形のイオン)を、酸化チタン光触媒や酸化チタン薄膜電極による電解で還元する反応を研究しています。研究範囲を広げるため、地元のニーズ・シーズを新たな研究テーマに結びつけたいと考えていますので、本荘由利テクノネットワーク参加の皆様にはお世話になると思います。これからもよろしくお願いたします。

Aターン秋田美人との楽しい産学連携
秋田県立大学システム科学技術学部
機械知能システム学科 熱工学講座
助教授 日向野 三雄



秋田県立大学システム科学技術学部
機械知能システム学科
助教授 日向野 三雄

残暑でグッタリしてた或日の午後、某社長が美人秘書と一緒に来室された。開口一番、我が社の研究員に「熱計測技術」を教育して欲しい! 聞けば、県外のベンチャー企業だが、県庁の勧誘で工業技術センター開放研究室で新製品を開発中、し

かも秋田に工場建設も検討中とか。秋田に大いに益する話を放置できないし、「熱計測」は専門ゆえ、二つ返事でOK! と言い掛けたが、待てよ肝心の研究員とは誰だ、それを確かめねば! と尋ねた。え〜、ウッソ〜! 何と美人秘書が研究員だそうだ?! 秋大・金属を卒業し、大都会からAターンした再就職1年目の秋田県人ママさん。温度計測は?、熱電対は、ヒーター設計は、との質問攻めに目を丸くしながらも、ニコニコ!? この話は危ないナ、暗雲漂う日本海に漕ぎ出すようだ? と社長、それを察したか、会社の経営状態や将来の夢を熱く、暑く語り出した。残暑で茹ってる吾輩の灰色の脳味噌は、社長の熱意にボイルされ、あっと云う間に、OKしてしまった。

それからが大変! なにせ相手は目に見えない「熱」だけでなく、眼に見えるがニコニコ得意な「秋田美人」。毎週一回一時間のデートで、伝熱学・熱物性学の講義と実験装置の試作を始めた。「熱計測」とは「温度および熱量の計測」だ

が、特に熱量計測が難しい。簡単な装置ほど熱損失が少なく良いデータが得られるよと、ヒーターを自作させた。初め不器用に見えたが、そこは主婦、裁縫よろしく、ガラス繊維織布にニクロム線を上手に縫込んだ。「熱計測技術」は苦勞して身に付けるものと、半ば放置して実験の様子を本荘で見ると、週半ばにはメール報告があり、面白い様に仕事が捗った。また自主的に新型ヒーターを試作したりと、実に教え甲斐があり、先生を嬉し泣きさせる学生、否、研究員に成長した。その間、僅かに3ヶ月！ 大学暮らしが永く、産業界の時間スケールを知らない私には、驚異的なスピードであった。こうして秋田にまた一人、女性の開発研究者が誕生した。

こうなると不思議なもので、急に寂しい思いに駆られる。約束の「熱計測技術」が身に付き、相手が成長したのを喜ぶ反面、こちらには教えるべきモノはもう無い。しかし、これは大学人の宿命なのだ！ そして、「教育を軸にした産学連携」も秋田の地域・産業の発展に寄与し、県立大学の設立目的に叶うものなのだ！？ そう悟った吾輩は、HY-Tec Netから次なる犠牲者の現れるのを、今や遅しと待っている。

第7回 会員企業PRコーナー

オラほの会社も会員だべ！

(株)佐藤工業所・TSI(株)

所在地：〒015-0362

由利郡由利町東鮎川字石垣 52 番地 19

TEL：SK 0184-53-3315 TSI 0184-53-2577

FAX：SK 0184-53-2868 TSI 0184-53-2448

代表者：代表取締役 佐藤 君雄

創業：SK 昭和 49 年 10 月 TSI 昭和 60 年 10 月

従業員：SK 12 名 TSI 26 名

製造品：SK 金属箔精密抵抗器 SK 機械加工

URL：<http://www.ocn.ne.jp/~tsi/> (TSI)

E-mail:SK sato3315@oregano.ocn.ne.jp

E-mail:TSI lmg-tsi@jasmine.ocn.ne.jp



会員企業紹介コーナーに寄稿依頼が暮れに舞込んで来たのですが、光栄である半面現在の弊社グループの低調な状況では紹介など澁がましく思い、なかなか書きそびれていたのですが、厚顔無恥をテクノネットワークの晒すのも良しとし簡単に紹介させていただきます。

昭和 49 年 10 年に (有) 佐藤工業所としてスタート依頼 3 社に分社しながら今日に至っております。1 社はしばらく前に閉鎖し工場も貸与し、残る 2 社も特別な技術や技能を持ち合わせていないのですが今日まで皆様のおかげで頑張ってきました。(株)佐藤工業所は現在アルファエレクトロニクス社の金属箔精密抵抗器を製造させていただいております。

折からの IT 不況で減産に苦しんでいますが、夢多い製品と確信しており、春を待つ木々のように期待に胸膨らませています。

TSI(株)は、機械加工、設計、組立を軸と少しずつですが、3 社の中でも唯一成長してきた会社です。すくなく自信も持っていたのですが、電子、電気機械器具のセットメーカーから部品メーカーまで中国が拠点となった今、このままでは日本の中でプーヤオ(不要)な会社になってしまさんいそうです。「何かしら特別な技術、技能を身付けないと！」と従業員共々毎日あせっている今日です。テクノネットワークで今一度この地を夢と希望に満ちた明るい地域にしたいものです。企業の紹介になりませんでした。



菊地工業株式会社

所在地：〒015-0341 秋田県由利郡由利町前郷字前郷 247-1
TEL：0184-53-3063
FAX：0184-53-3136
代表者：代表取締役 菊地 晃一
創業：昭和42年 11月
製造品：土木工事一式・解体工事・外構工事
URL：<http://www.edinet.ne.jp/~kikuchi>
E-mail：kikuchi@edinet.ne.jp



当社は土木工事を中心に建設業を行っています。主に公共工事が中心ですが、数年前より民間工事の受注も増加しており、一般家庭の塀工事、庭先の舗装工事等を行っています。

また、数年前より始めた家屋解体工事は環境にも配慮し、皆様に喜ばれております。皆様のご期待に沿えるよう今後も民間工事にも力を注いでいきたいと思っております。ちなみに見積もりは無料でっておりますので、お気軽にお問合せください。

さて、本業の公共工事ですが、ここ最近の公共工事不要論には大変困ったものだと思います。東京等の都市部では確かに道路も整備されて不要かも知れませんが、私達の生活する秋田県・由利郡はどうでしょうか？冬になると地吹雪で前が一切見えない道路、

車がやっと交差できる住宅道路、首都圏や隣の都市に行くのに要する大量の時間、さらに、幹線道路が一旦通行止めになると迂回する道路すらないのです。こんな田舎でも人が住んでいる以上都会並に整備する必要があると思っております。今まで地方の人が都会を構築したのですから、今度は地方が都会に構築してもらえると信じています。

兎も角、当社はこの地域でこの地域の人々と共に建設業を行っていると思っております。だからこそ、この地域の発展と人々の生活改善の為に今後も貢献して参りたいと思っております。

シリーズ

エッセイコラム



HY-Tec Net 事務局参与
本荘由利産学共同研究センター
コーディネーター 加藤 忠司

新しい歴史の創出に向かって

HY-Tec Net 事務局参与

本荘由利産学共同研究センターコーディネーター 加藤 忠司

新しい年 2002年 が明けました。皆様には希望あらたに新年を迎えられた事と思っております。

21世紀最初の年 2001年 を反映する「今年の漢字」に「戦」が選ばれました。長引く不況に各企業の大規模リストラ、追討ちをかけるように米中枢同時テロ発生(9/11)、狂牛病問題等々あった中で、皇太子ご夫妻に敬宮愛子さまのご誕生となり誠に慶賀な事でした。

今年はどうのような「漢字」が選ばれるのでしょうか。

この様な状況下で、本荘由利地域一体となった支援を受け、昨年10月2日、本荘由利産学共同研究センターが新たに開所いたしました。この機能が秋田県立大学と地域企業の連携により、国が科学技術基本法で推進する、地域における科学技術基盤形成の理念を実現すべく活動が期待されます。現在研究センター内に導入設置された18機種に及ぶ新鋭機器の一般供用は1月より

り行うべく準備中です。

ところで私は本荘由利産学共同センター、オープンと期を同じくして同センターの一員となりました。以前は直前の

定年までTDK(株)電子部品事業の業務に海外生産工場(独TMD、6年半)経営業務を含め、勤務させていただきました。企業との関係が主でした。

TDK創業者である故斎藤憲三先生からはフェライト創業のキーワードでもある「ノーオブリゲーションオブマネー」(no obligation of money)に係わるご講話、故山崎貞一相談役の「一年の計は暮れにあり」、故小松正一台湾董事長の思想「ものの勝負」が特に教えとして鮮明に脳裏に焼付いております。「ものの勝負」に対する考え方は私にとり「元氣と勇氣、夢」を与えていただき、心の大きな支えとなりました。

話しは変わりますが、元旦のNHK総合テレビで「世界遺産・白川郷・心をつないだ大屋根ふき」500人の“結”で30年ぶりに大屋根ふきがよく見える▽時代とともに薄れ行く心のきずな復活が放映されておりました。渡部事務局参与/コーディネーターマネージャーも創刊号で強調されておりましたが、今世紀は“心”を主体にした展開を予測する記事が多々見受けられます。“むすび”“つながり”“きずな”の観点でこのプログラムから今年の大切な「キーワード」を得たと思います。“結”です。

HY-Tec Netは2年目の活動に入りました。情報収集、発信、分科会の活動等、また産学共同研究センターは、機器の利用、研修室の活用等本格的な活動が期待されています。

重複になりますが、PRは繰返しも非常に重要です。佐藤事務局参与/コーディネーターが同じく創刊号でコーディネーターについて簡潔に述べられていますので再録としました。

“コーディネーターの使命は、創業希望者の構想計画から会社設立まで、事業の改革、新分野進出や研究開発、商品開発等について県内の大学や公設の試験研究機関はじめ専門家、金融機関、行政などと連携してやる気のある方たちを応援することです。”

さて「今年はとにかく足でかせぎ コミュニケーションを主眼に“結”の輪を創出すべく、当機関、機能のPRと私のPRも兼ね、県立大の諸先生、行政の関係者、地域核企業、金融機関の皆様を訪問させて頂きたい。」これが私の大目標です。産学官連携の新製品、新事業、新雇用職場創出等の期待感がより一層高まっております。本荘由利テクノネットワークが、産学官連携の推進、地域の活性化等情報交流と共有化、人材の育成をさらに促進し本荘由利産学共同センターおよび本荘由利地域中小企業支援センター等、その機能が地域社会に貢献できるよう、新たな歴史の創出に向かって精一杯お役に立ちたいと思います。

情報 プラザ

INFORMATION

2月～3月までの主要行事

日時・場所	行 事	概 要
2月16日(土) 13:30～17:00 マークスGホテル 仙台市宮城野区榴岡 1-2-45	平成13年度東北地域起業家教育交流 促進事業セミナー ～学校がホンキで取り組む起業家教育!～ 主催：東北経済産業局 (財)宮城総合研究所 定員：200名	13:30～ 基調講演「早期起業家教育はなぜ必要か」 早稲田大学大学院教授 大江 建 14:25～ 先進的な起業家教育実践事例の紹介 15:25～ 仙台市柳生小学校事例発表 16:10～ 分科会 問合せ先:TEL022-265-3718 経済局総務企画部企画課黒瀬

※上記についての参加・お問い合わせは、下記HY-Tec Net 連絡窓口へお問い合わせ下さい。

.....編集後記.....

「HY-Tec Net 通信」第7号に、ご寄稿いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

この第7号で、発刊1周年になります。本紙発刊にご支援、ご協力いただいた皆様、読者であります会員の皆様に深く感謝申し上げます。創刊号以来、絶えず手探りで編集作業でありましたし、時間に追われながら予定日に間に合わなかったこともありました。何とか1周年を迎えることができましたこと、改めて御礼を申し上げます。

激動の2001年。2002年は甦る年でありたいものです。代表の巻頭の挨拶にもありますように、「現状打破」のため、HY-Tec Net ができることを、小さいことでも、取り組まなければならないと思います。

3月発刊の第8号も内容豊かにするよう努力します。応援よろしく願いいたします。

編集委員：須藤一知(幹事長)、吉原敏郎、高橋幸治、佐藤隆、辻川新二郎、斎藤民一(幹事)

HY-Tec Net 事務局	：(株)秋田新電元飛鳥工場内	TEL 0184-24-4206	FAX 0184-24-4226
HY-Tec Net 連絡窓口	：本荘由利産学共同研究センター	TEL 0184-22-3488	FAX 0184-23-7460